

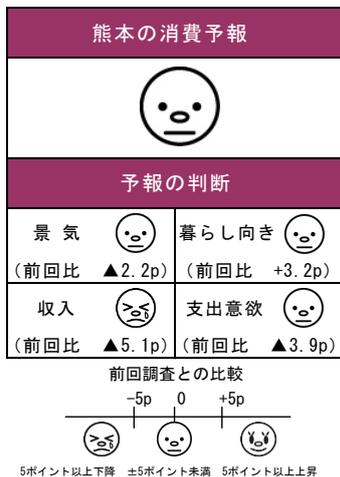
第35回 熊本の消費予報調査(2016年7月調査)

女性の消費マインド、やや慎重さ増す

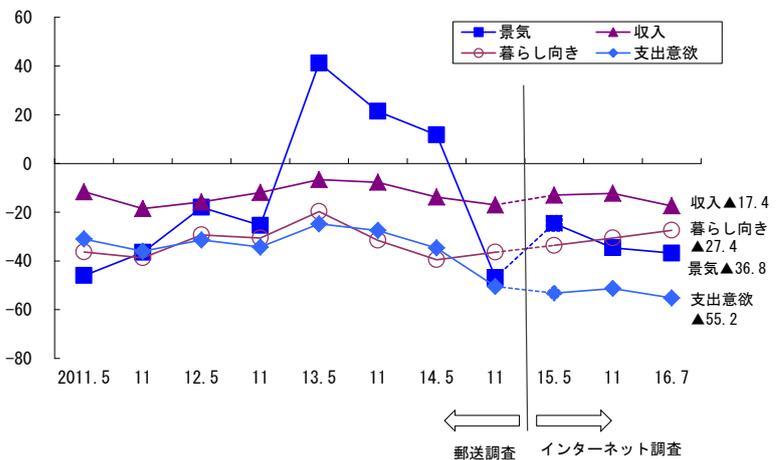
当研究所では、熊本県在住の女性を対象として、1999年5月より「熊本の消費予報調査」を実施している。本調査では、消費マインドに影響する「景気」、「暮らし向き」、「支出意欲（支出の引き締め）」に対する意識と、実際の消費に関わる「収入」の増減について今後半年の見通しを尋ねている。その上で、以上4つの項目並びに日常的、非日常的な支出の状況から総合的に判断し、これから半年間の熊本の消費を予報している。なお、本調査は毎年5月に実施しているが、今回は熊本地震を考慮して7月に調査を行った。

【調査結果のポイント】

1. 「景気」の見通しDIは▲36.8と、前回調査（2015年11月実施）を2.2ポイント（以下、p）下回った。「収入」の見通しDIは前回は5.1p下回る▲17.4、「暮らし向き」の見通しDIは▲27.4となり、前回は3.2p上回った。また、「支出意欲」の見通しDIは前回は3.9p下回る▲55.2となった。熊本地震発生から3ヵ月経過した時点における今後半年の見通しでは、女性の消費マインドは、やや慎重さが増したように思われる。
2. 熊本地震発生前と比較した現在の生活環境をみると、「ほぼ元の生活に戻った」「元の生活に戻りつつある」の合計は59.5%、「元の生活に戻るにはまだ時間がかかる」「元の生活に戻る目処が立たない」の合計は20.1%となった。また、「地震前後で大きく変わらなかった」は20.4%だった。



【今後の見通しDIの推移】



【回答者の属性】

年代	実数(人)	構成比(%)
20代	100	20.4
30代	100	20.4
40代	100	20.4
50代	100	20.4
60代以上	89	18.2
合計	489	100.0

【調査の概要】

1. 調査対象：熊本県在住の20歳以上の女性
2. 調査期間：2016年7月10日～19日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査  
(調査会社：(株)マクロミル)
4. 有効回答：489人

1. 景気の見通し

景気の見通しDIは▲36.8となり、前回調査を2.2p下回った。年代別にみると、30代、40代、50代は前回は下回り、景気の悪化を見込んでいる。なかでも50代は前回は17.0p下回る▲51.0となり、最も厳しい見通しとなった（図表1、2）。

自由回答をみると、「円高が進んでいる」（40代専業主婦）、「物価が上がる」（30代専業主婦）という意見がみられた。さらに、英国のEU離脱決定や中国経済の減速などが日本経済に及ぼす影響を不安視する意見や、熊本地震の影響で景気が悪化することを懸念する生活者も見受けられた。

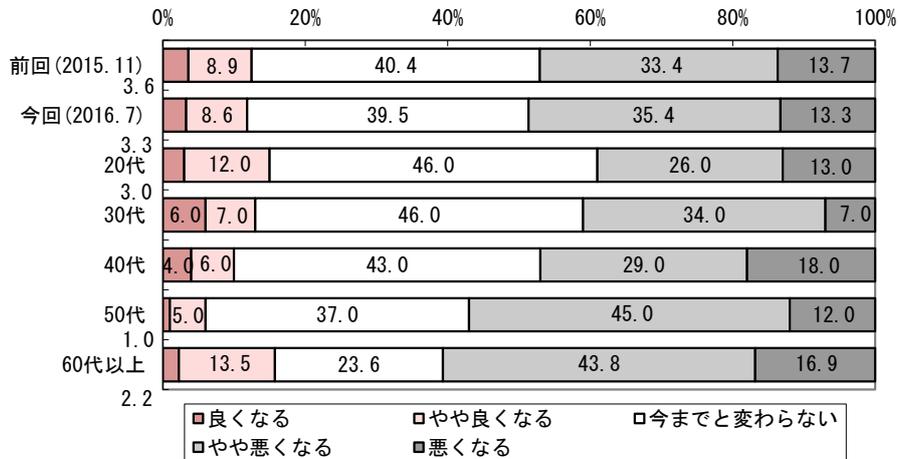
一方で、景気の改善を見込む生活者からは、「東京オリンピックに向けて良くなりそう」（20代会社員）、「いつまでも低迷することはないだろう」（50代会社員）という景気回復を期待する意見がみられた。また、「目に見えて、良くも悪くもなっていない」（40代パート）という意見もあった。

図表1 景気の見通しDI

DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今回 (2016.7)		前回 (2015.11)	前々回 (2015.5)
	前回比			
全体	▲36.8	-2.2	▲34.6	▲24.6
20代	▲24.0	6.0	▲30.0	▲34.0
30代	▲28.0	-5.0	▲23.0	▲15.0
40代	▲37.0	-5.0	▲32.0	▲24.0
50代	▲51.0	-17.0	▲34.0	▲19.0
60代以上	▲44.9	9.7	▲54.6	▲31.0

図表2 今後半年間の景気の見通し



## 2. 収入の見通し

収入の見通しDIは▲17.4で、前回は5.1p下回った。年代別にみると、60代を除くすべての年代で前回は下回っている。なかでも20代、40代、50代は9.0p下回り、厳しい見通しとなった(図表3)。また、今後半年間の収入の見通しをみると、「増えそう」は前回(12.5%)とほぼ同水準の12.7%に対して、「減りそう」は前回は5.4p上回る30.1%となり、収入減を見込む生活者が増加した。年代別にみると、30代を除くすべての年代で「減りそう」が3割を超えている(図表4)。

自由回答をみると、収入の増加を見込む生活者からは、「仕事が増えた」(50代自営業)、「昇給した」(20代会社員)という意見が見受けられた。

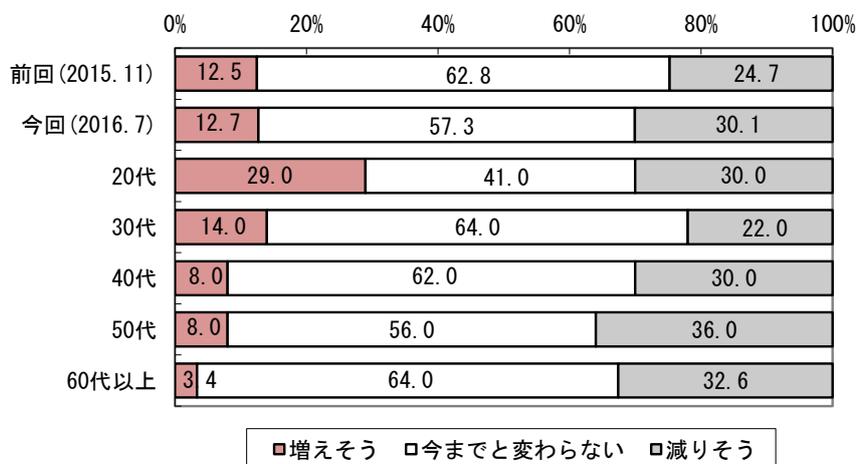
一方で、収入の減少を見込む生活者では、「震災でペースアップがなくなった」(30代会社員)、「お客様が減った」(60代自営業)、「勤め先が休業した」(20代パート)、「被災し解雇になった」(20代パート)という熊本地震の影響とみられる意見が寄せられた。地震の発生で職場が被災した生活者もいると推察され、収入の見通しに影響を与えたと思われる。

図表3 収入の見通しDI

DI=「増えそう」-「減りそう」

	今回 (2016.7)	前回比	前回 (2015.11)	前々回 (2015.5)
全体	▲17.4	-5.1	▲12.3	▲13.0
20代	▲1.0	-9.0	8.0	1.0
30代	▲8.0	-1.0	▲7.0	▲4.0
40代	▲22.0	-9.0	▲13.0	▲13.0
50代	▲28.0	-9.0	▲19.0	▲12.0
60代以上	▲29.2	1.7	▲30.9	▲37.0

図表4 今後半年間の収入の見通し



### 3. 暮らし向きの見通し

暮らし向きの見通しDIは▲27.4となり、前回は3.2p上回った。年代別にみると、20代は前回は14.0p上回り、▲3.0と大きな改善がみられた（図表5）。

自由回答をみると、暮らし向きの改善を見込む生活者は、「節約をして良くしていきたい」（40代会社員）、「仕事が増えた」（50代パート）、「希望する仕事に就くことができた」（20代会社員）という意見が見受けられた。また、「収入が減っても創意工夫をして生活している」（40代会社員）、「将来のことを考えて行動に移している」（30代パート）という意見もあり、暮らし向きをよくするための工夫を行う生活者もみられた。その一方で、暮らし向きの悪化を見込む生活者では、「収入は増えず支出が増すばかり」（50代会社員）、「塾代など子どもにかかる支出が増える」（40代専業主婦）という意見が寄せられた。

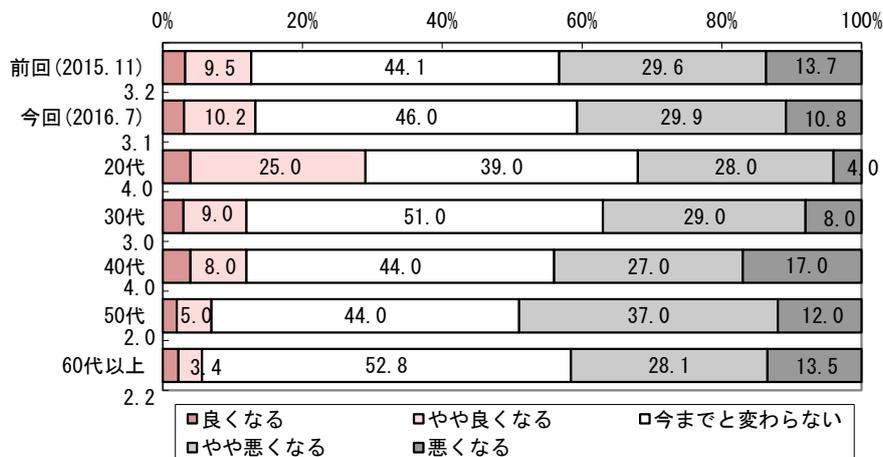
また、「震災のための修理費用がかかる」（40代会社員）、「被災後の支出が不安」（50代会社員）という意見があり、今後の生活再建のための支出などを不安視する生活者もいるようである。

図表5 暮らし向きの見通しDI

DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今回 (2016.7)		前回 (2015.11)	前々回 (2015.5)
	前回比			
全体	▲27.4	3.2	▲30.6	▲33.6
20代	▲3.0	14.0	▲17.0	▲31.0
30代	▲25.0	-5.0	▲20.0	▲22.0
40代	▲32.0	3.0	▲35.0	▲26.0
50代	▲42.0	-2.0	▲40.0	▲38.0
60代以上	▲36.0	5.2	▲41.2	▲51.0

図表6 今後の暮らし向きの見通し



#### 4. 支出意欲の見通し

今後支出を緩めるかどうかをみる支出意欲 DI は▲55.2 となり、前回は 3.9 p 下回った。年代別にみると、60 代以上を除くすべての年代で前回は下回り、若い年代ほど支出の引き締め意向が強くなっている。なかでも 20 代は前回は 8.0 p 下回る▲66.0 と、最も厳しい見通しになった（図表 7、8）。

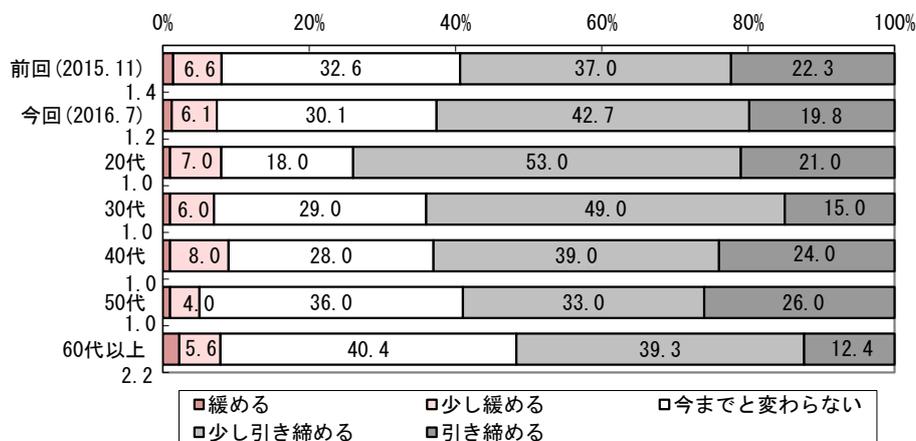
自由回答をみると、「何が起ころかわからないから引き締めておきたい」（40代専業主婦）、「突然の出費に備えるため」（50代パート）という意見や、「今後に不安を感じる」（20代会社員）という意見が見受けられた。また、年代を問わず最も多く寄せられたものは「貯蓄をしたい」だった。熊本地震で被災し、予期せぬ支出が発生した生活者も多いと推察され、将来への不安から貯蓄の必要性を実感したものと思われる。その一方で、「復興のため消費を拡大したい」（60代専業主婦）、「入ったお金を使わないと経済は回らない」（50代自由業）という意見もみられた。

図表7 支出意欲DI

DI=(「緩める」+「少し緩める」)-(「少し引き締める」+「引き締める」)

	今回 (2016.7)		前回 (2015.11)	前々回 (2015.5)
	前回比			
全体	▲55.2	-3.9	▲51.3	▲53.2
20代	▲66.0	-8.0	▲58.0	▲58.0
30代	▲57.0	-2.0	▲55.0	▲51.0
40代	▲54.0	-4.0	▲50.0	▲56.0
50代	▲54.0	-5.0	▲49.0	▲51.0
60代以上	▲43.8	0.5	▲44.3	▲50.0

図表8 今後の支出意欲の見通し

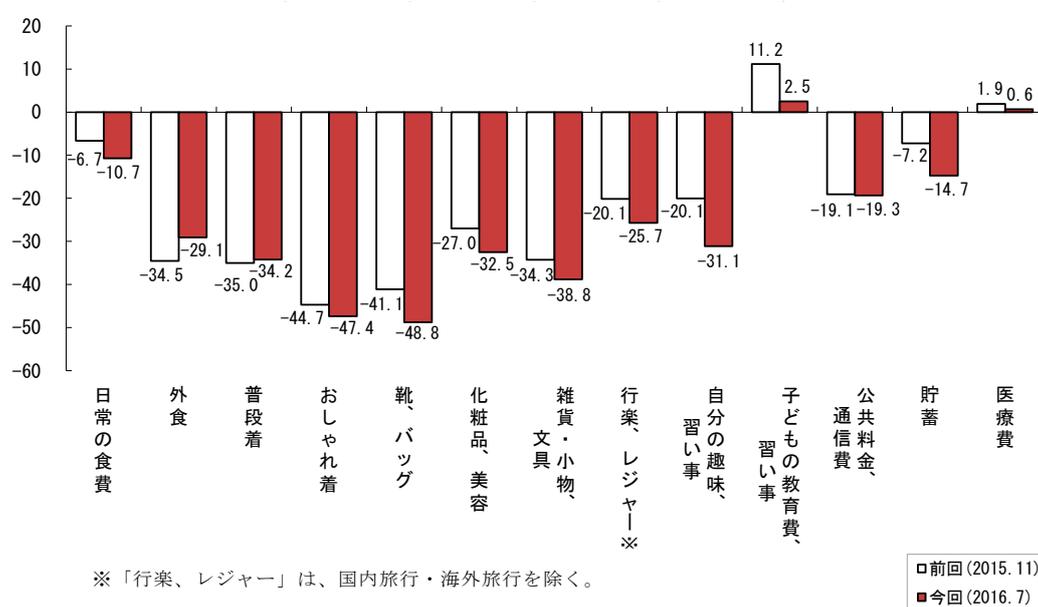


### 5. 日常的な支出の見通し

日常的な支出の見通しDIをみると、「外食」と「普段着」を除くすべての項目において前回は下回る結果となった。項目別にみると、「自分の趣味、習い事」で前回は11.0p下回り、最も大きなマイナス幅になった。さらに、「子どもの教育費、習い事」「靴、バッグ」「貯蓄」「行楽、レジャー」「化粧品、美容」で5p以上のマイナスとなった。なかでも、「貯蓄」が前回は7.5p下回る▲14.7であることが目を引いた（図表9）。

図表9 日常的な支出の今後の見通しDI

DI = 「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」

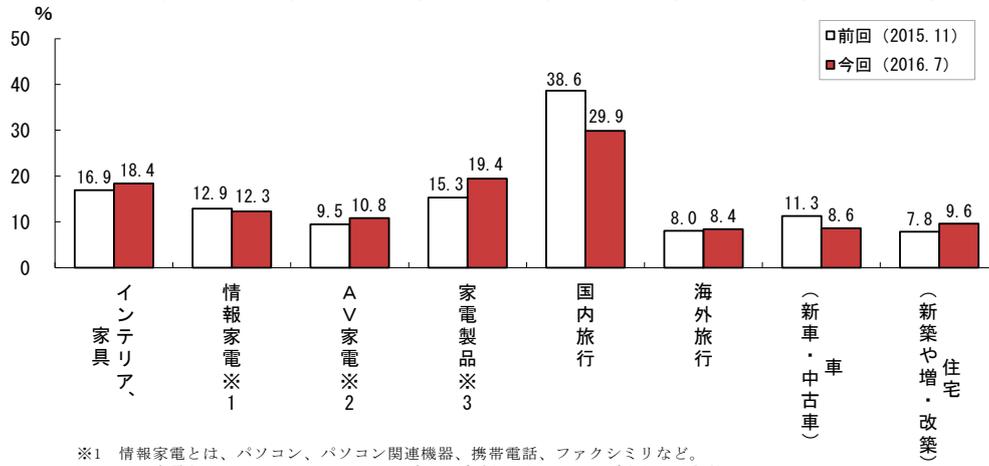


### 6. 非日常的な支出の見通し

次に非日常的な支出の見通しをみると、8項目中5項目で前回は上回っている。項目別にみると、「家電製品」で4.1p前回は上回った。購入するものを尋ねると、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジなどが多くみられた。さらに「インテリア、家具」「AV家電」「住宅」もわずかに前回は上回り、熊本地震の影響で家電製品などの買い替えや住宅の修理を行う生活者が多いことが推察される。

前回は下回る項目をみると、「国内旅行」で8.7p下回った。熊本地震による予期せぬ支出が負担となり、旅行に行く気分になれない生活者もいると思われる（図表10）。

図表10 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し  
支出見通し=今後半年間で購入計画ありの割合



※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話、ファクシミリなど。  
 ※2 A V家電とは、テレビ、DVDレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。  
 ※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とA V家電以外の電気製品。

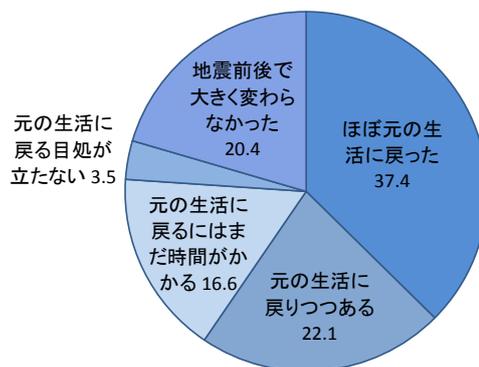
## 7. 熊本地震の影響

### (1) 熊本地震前と比較した現在の生活環境

これまでの調査結果をみると、熊本地震の影響を受けたコメントが見受けられた。そこで熊本地震前と比較した現在の生活環境をみると、「ほぼ元の生活に戻った」「元の生活に戻りつつある」の合計は59.5%、「元の生活に戻るにはまだ時間がかかる」「元の生活に戻る目処が立たない」の合計は20.1%となった。また、「地震前後で大きく変わらなかった」は20.4%だった(図表11)。

自由回答をみると、元の生活環境に戻ると考える生活者では、「自宅の修理は終わっていないが、日常生活を取り戻している」(20代会社員)、「生活圏内の店も徐々に再開し始めた」(30代パート)という意見がみられた。これに対して、元の生活環境に戻るには時間がかかると考える生活者においては、「家が全壊し、仮住まい状態」(50代専業主婦)、「勤め先が休業した」(20代パート)、「家の補修の見込みがない」(60代専業主婦)などの意見が寄せられた。

図表11 熊本地震前と比較した現在の生活環境



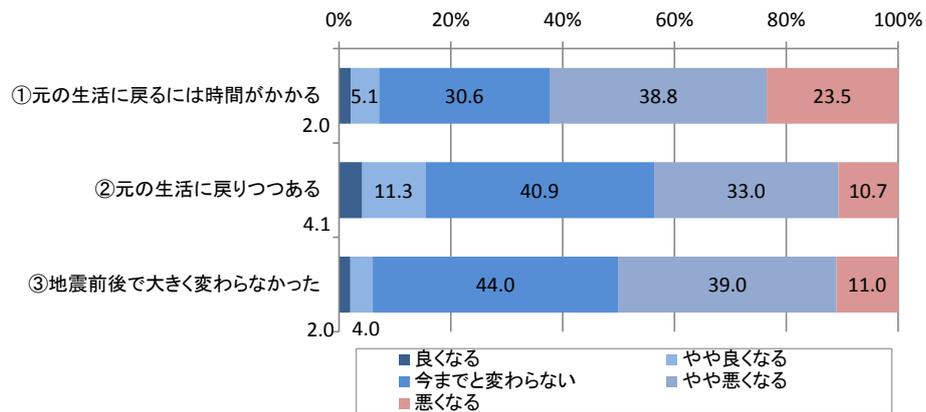
(2) 今後半年間の見通し

前頁でみた熊本地震前と比較した現在の生活環境を、①「元の生活に戻るには時間がかかる」(「元の生活に戻るにはまだ時間がかかる」、「元の生活に戻る目処が立たない」の合計)、②「元の生活に戻りつつある」(「ほぼ元の生活に戻った」、「元の生活に戻りつつある」の合計)、③「地震前後で大きく変わらなかった」の3グループに分類し、今後半年間の見通しをみることにする。

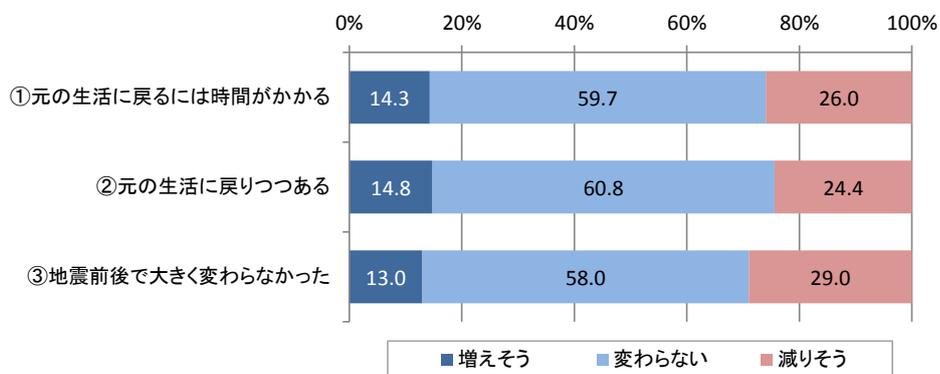
景気の見通しをみると、①の生活者では、「やや悪くなる」「悪くなる」の合計が6割を超え、景況感の悪化がみられた(図表12)。自由回答には「震災で経済が落ち込む」(50代パート)、「自然災害が多い」(60代専業主婦)という意見がみられた。熊本地震や集中豪雨などの自然災害も多発しており、その被害が景気に与える影響を懸念する生活者も見受けられた。

収入の見通しには、大きな相違点はみられず、生活環境が収入の見通しに与える影響は小さいようである(図表13)。

図表12 今後半年間の景気の見通し



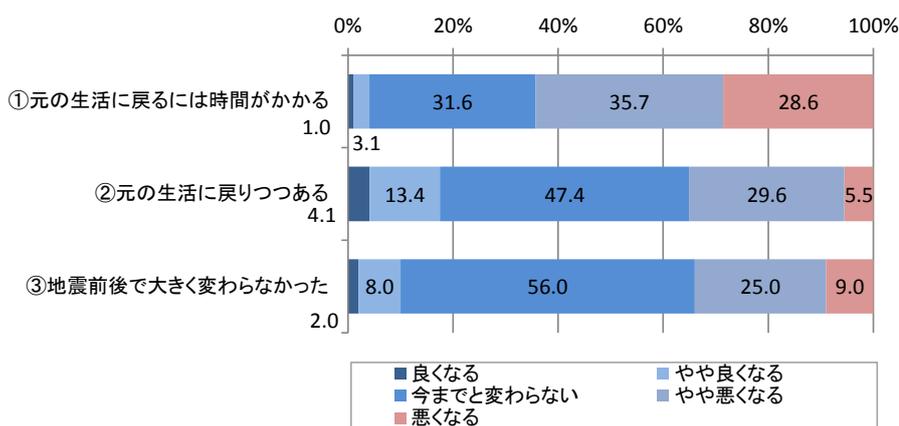
図表13 今後半年間の収入の見通し



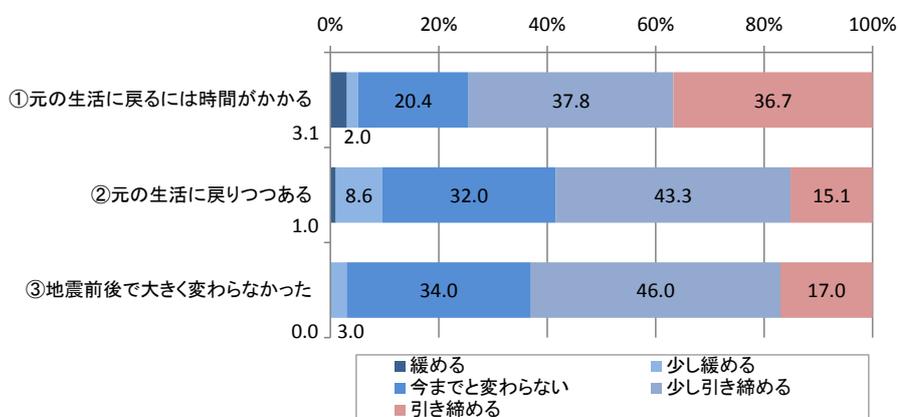
次に、暮らし向きの見通しをみると、①の生活者で、「やや悪くなる」「悪くなる」の合計が64.3%となった。なかでも「悪くなる」は3割近くを占めており、暮らし向きの悪化を見込む生活者が多い(図表14)。自由回答をみると、「震災で家を失った」(60代専業主婦)、「仕事がみつからない」(40代パート)、「勤務先とともに被災した」(50代看護師)という意見もあり、熊本地震の被害が大きい生活者ほど、暮らし向きの見通しは厳しいものになっている。

また、支出意欲の見通しでは、①の生活者で「引き締める」が36.7%となり、支出の引き締め意向が強くなっている(図表15)。自由回答をみると、「生活再建に相当なお金がかかる」(30代パート)、「今後の生活のため」(60代専業主婦)、「収入が増えず、支出が増える一方」(20代会社員)という意見がみられた。地震の影響により、今後の支出が見通せないことから、支出の引き締めを検討している生活者も多いと思われる。

図表14 今後半年間の暮らし向きの見通し



図表15 今後半年間の支出意欲の見通し



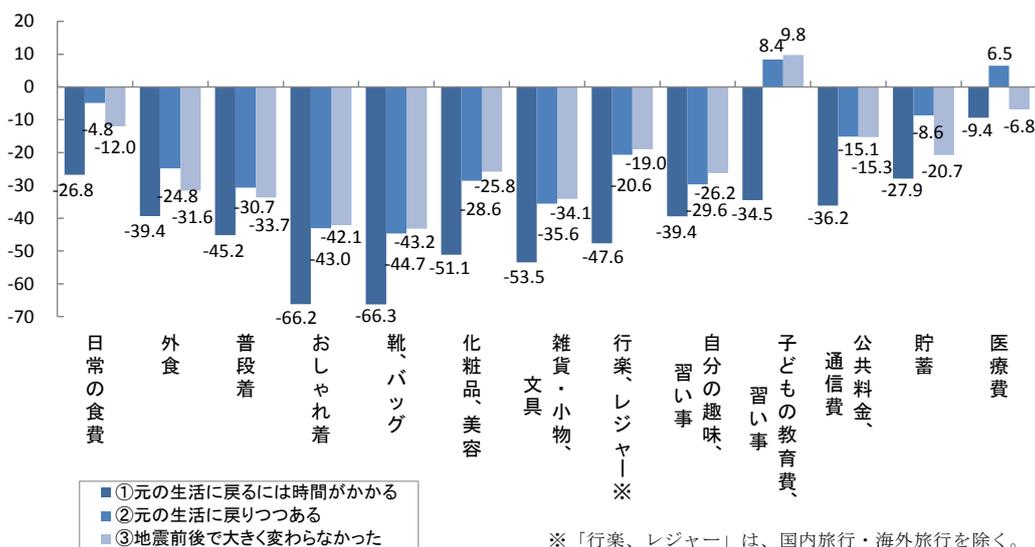
### 8. 日常的な支出の見通し

日常的な支出の見通しDIをみると、①の生活者のマイナス幅が大きくなっている。項目別にみると、「靴、バッグ」▲66.3、「おしゃれ着」▲66.2、「雑貨・小物、文具」▲53.5、「化粧品、美容」▲51.1など、“不要不急”な支出を抑える意向が強くみられた。また、「行楽、レジャー」は▲47.6となり、③の生活者と比較すると28.6p下回っている。①の生活者は、生活再建を第一に取り組んでいるため、行楽やレジャーを楽しむ気持ちにはなれないものと推察される。

次に、②の生活者と③の生活者の日常的な支出の見通しDIを比較すると、「貯蓄」と「医療費」で10p以上の差があるものの、大きな違いは見受けられなかった（図表16）。

図表16 日常的な支出の今後の見通しDI

(DI=「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」)



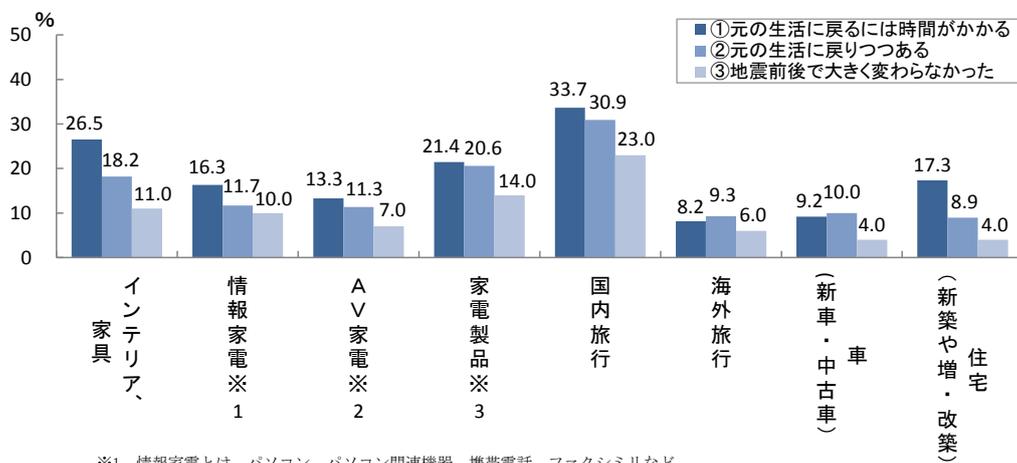
### 9. 非日常的な支出の見通し

非日常的な支出の見通しをみると、①の生活者と②の生活者において、今後半年間の支出見通しが高くなっている。

また、①の生活者と③の生活者を比較すると、「インテリア、家具」で15.5p、「家電製品」で7.4p、「情報家電」と「AV家電」で6.3p、①の生活者が上回っている。これらの生活者においては、熊本地震の影響で自宅が被害を受け、家具や家電製品などの買い替えが必要になったと思われる。また、①の生活者の「住宅（新築や増・改築）」は、③の生活者を13.3p上回る17.3%だった。自宅の修理や建て替えなどの被害を受けた生活者が多いことがうかがえる（図表17）。

図表17 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し

(支出見通し=今後半年間で購入計画ありの割合)



※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話、ファクシミリなど。  
 ※2 AV家電とは、テレビ、DVDレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。  
 ※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

以上